

番号	7	平成29年度公共事業再評価調査				担当課名	道路整備課
事業名	道路改築事業				事業主体	静岡県	
箇所名	一般県道 高洲和田線 (焼津市中新田)				関係市町村	焼津市	
事業採択年度	平成 25 年度		計画期間	平成25年度 ~ 平成34年度			
用地着手年度	平成 - 年度		工事着手年度	平成 - 年度			
再評価理由※	事業採択 (H25) 後 5 年間に経過した時点で継続中						
全体事業費	百万円	投資状況 (百万円)	~H27年度	H28年度	H29年度見込	計	
	2,000		31	0	49	80	
事業概要	<p>(1) 事業目的 (一) 高洲和田線は、藤枝市高洲と焼津市和田を連絡する地域の生活を支える重要な路線である。今回の事業箇所は、焼津市から島田市を連絡する(都)小川島田幹線の一部であり、(一)高洲和田線のバイパス工事として実施するもので、現道等周辺道路の安全で円滑な交通の確保を目的とする。将来的には、今後整備が予定されている志太中央幹線とのネットワーク化により地域間の連携強化を図る幹線道路となる。</p> <p>(2) 事業内容 延長538m 幅員：車道13.0m (全幅25.0m)、4車線</p>						
【視点1】	<p>(1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化 ・ (都)小川島田幹線の起点である焼津市小川地区では、3地区 (計225ha) の区画整理が平成31年から平成35年の完成を目標に進められている。 ・ (都)小川島田幹線の沿線地区では焼津市・藤枝市とも世帯数は増加傾向にある。 ・ H28年度には小川島田幹線が連絡する島田市内の(都)東町御請線の一部区間が供用。 焼津市から島田市までを連絡する主要幹線道路の一部を構成する箇所であり、交通量も増加傾向にあるため、当該区間の早期供用の期待は高まっている。 ・ 交通量：7,271台/12h (H17) → 7,684台/12h (H22)</p> <p>(2) 事業の投資効果 現時点 (H29) の分析結果：B/C=3.02 ・ 総便益 (B) = 40.84億円 走行時間短縮便益32.64億円、走行経費減少便益6.64億円 交通事故減少便益1.56億円 ・ 総費用 (C) = 13.54億円 建設投資額13.35億円、維持管理費0.19億円</p> <p>(3) 事業の進捗状況 【事業費】 1.5% (H29末見込み：31百万円/2,000百万円) 【事業量】 0.0% (延長：0m/538m) 【用地面積】 0.0% (0㎡/1,600㎡) 【工事費】 0.0%</p>						
事業の必要性	<p>評価 継続が妥当 ・ 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</p>						
【視点2】 今後の事業の進捗の見込み	<p>事業効果の早期発現を図るため、東側から焼津市が整備中の(市)保福島大島新田線交差部までの部分供用に必要な用地の取得を重点的に進める。</p>						
	<p>評価 継続が妥当 ・ 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</p>						
【視点3】 新たなコスト削減・代替案立案等の可能性	<p>工事の施工にあたっては新技術・新工法、建設発生土の他工事流用によりコスト削減を図っていく。</p>						
対応方針(案)	<p>(1) 対応方針(案) 本事業を 継続 (見直し後継続 ・ 中止) する。</p> <p>(2) 理由 焼津市から島田市を連絡する幹線道路の一部であり、当該事業区間は焼津市内のネットワークを形成する道路として必要性が高い。地域間の連携強化、交通の分散による現道等周辺道路の安全で円滑な交通を確保するため、事業を継続する。</p>						

一般県道 高洲和田線

(「費用便益分析マニュアル」国土交通省道路局 都市・地域整備局 平成 20 年 11 月)

総括表

I) 総便益 B	40.84 億円
便益=[評価期間内に当該路線を整備しなかった場合に発生する経費] - [評価期間内に当該路線を整備した場合に発生する経費]	
II) 事業費 C	13.54 億円
総費用=[当該計画道路の建設投資額]+[当該計画道路の検討期間内に必要となる維持管理費]	
III) 費用便益比 B/C	3.02

I) 総便益の算出

①各種費用の H42 の便益

	走行時間費用 (億円/年)	走行費用 (億円/年)	交通事故損失額 (億円/年)	合計 (億円/年)
整備しなかった場合 A	5.10	1.18	0.30	6.58
整備した場合 B	2.84	0.72	0.19	3.75
便益 A-B	2.26 時間短縮便益	0.46 経費減少便益	0.11 事故減少便益	2.83

- ・「時間便益」：道路整備による走行時間短縮を賃金率等で金銭評価
- ・「走行便益」：走行円滑化による燃費向上等に伴う走行経費節約を金銭評価
- ・「事故減少便益」：道路整備により交通事故件数が減少し事故の社会費用が減少する評価
- ・表示桁数の関係で、計算値と一致しないことがある。

②総便益の算出

供用後 50 年間を評価期間としているため基準年の年間経費に各年の割引率をかけ、便益を算出し、当該道路を整備しなかった場合とした場合の差を求め、総便益とする。

	将来の便益 H33~H82	
総便益	40.84	…B

II) 総費用

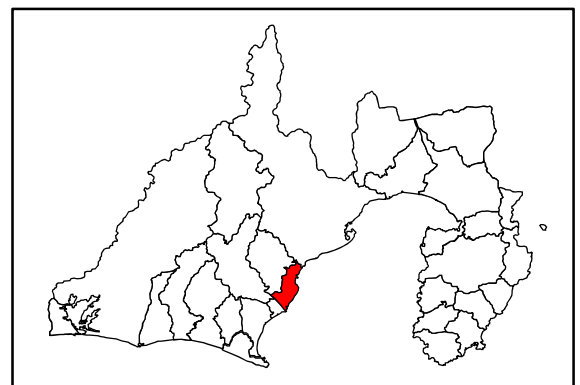
[総費用]=[建設投資額]+[維持管理費]-[用地費の残存価値]

事業費 (億円)	建設投資額 (億円)	年間維持管理費 用(万円/年)	維持管理費 (億円)	用地残存価値 (億円)	総費用 (億円)
20.00	14.98	118.8	0.19	1.63	13.54

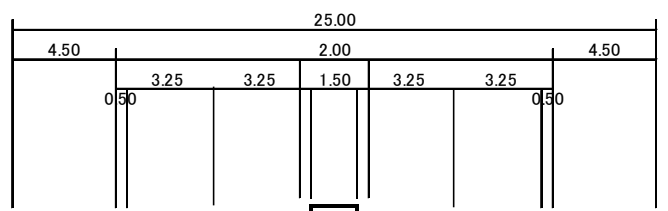
…C

- ・「建設投資額」：建設費用を算出基準年次の価値で評価するために各年次ごとに割引率をかけ、合計したもの。
- ・「維持管理費」：整備延長に対する年間維持管理費用に割引率をかけ、供用後 50 年間を合計したもの。
- ・「用地費の残存価値」：検討期間後の残存価値を現在価値化したもの。
- ・表示桁数の関係で、計算値と一致しないことがある。

位置図

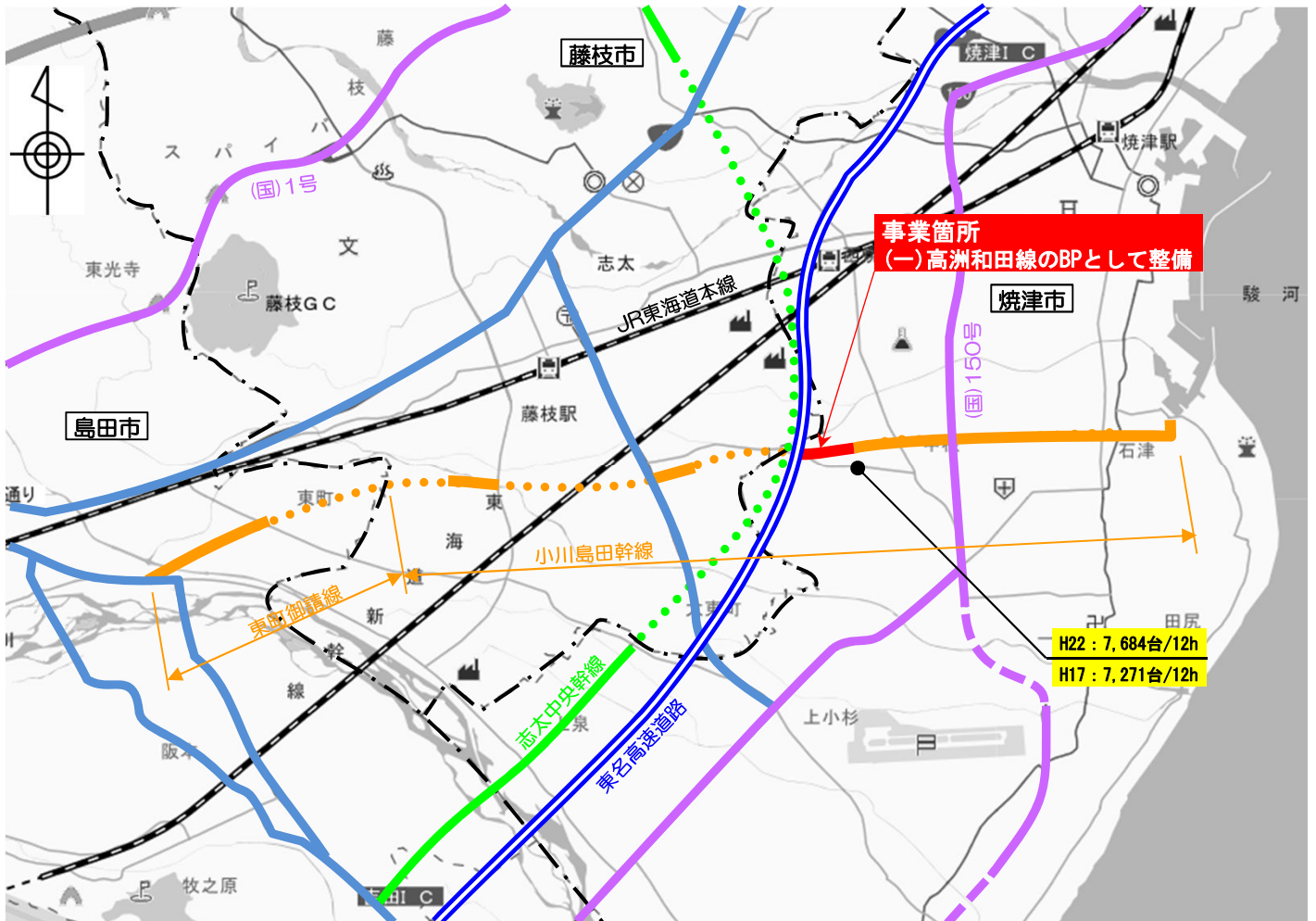


【標準横断面図】



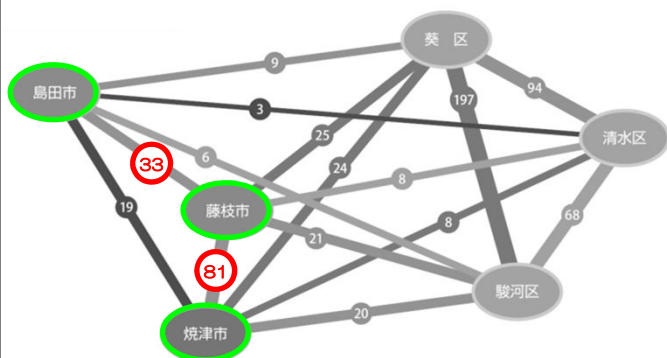
■ 地域間の連携強化

JR東海道線より南側で、焼津市-藤枝市-島田市を連絡し、地域間の連携強化や所要時間の短縮するため、(都)小川島田幹線の一部となる(一)高洲和田線の整備を推進する。



地域間の人の動き

焼津市-藤枝市-島田市を行き来する移動が多い。



第4回静岡中部都市圏パーソントリップ調査

自動車分担率

自動車の分担率は高く、増加傾向。

